

## 資 料

# 縄文時代における日韓のドングリ遺体に関する考察

和田 稜三

- I 報告の意図
- II 既存の研究
- III 縄文遺跡出土のドングリ類とその検討
- IV 新石器遺跡出土のドングリ類とその検討
- V おわりに

キーワード：縄文時代、日本、韓国、ドングリ遺体、分布

## I 報告の意図

日本列島の縄文時代と朝鮮半島の新石器時代は、ほぼ平行する。この頃の主要な生業は採集・漁撈・狩猟であったが、なかでも採集の占める割合はけっして小さくはなかった。採集で獲得されたのは、堅果類・山野草（根茎を含む）・キノコ類である。とりわけドングリ類・クルミ・クリ・トチノミなどの堅果類は炭水化物・植物性蛋白質・脂肪に富むことから、食料資源としてはきわめて重要な役割をはたしていた。

両地域から出土するドングリ類の時間・空間的分布にかかる研究は過去にあるが、すでに長い時間の空白が経過した。ここでは最新の情報を提供し、その検討を加えることによって既成の考え方に若干の修正を図りたい。

## II 既存の研究

ドングリ類の遺体にかかる時間・空間的分布

を初めて明らかにしたのは、渡辺誠（1972）である。渡辺は日本列島の森林生態系を視野にいれながら、53の縄文遺跡から出土したドングリの種類と分布に着目した。ドングリは、種類によってタンニンの含有量が異なるからである。渡辺はアク抜き技術の成立上限を縄文時代中期ではないかと想定し、遺体の分布が東日本に偏在することを指摘した。その後、渡辺（1975）はドングリ類が出土した15遺跡を加え、民俗調査体験から、ドングリの種類とアク抜き技術の関係を整理した。すなわち、生食が可能なシイ類、水さらしを伴うカン類、水さらしに加熱処理や加灰処理が加わるナラ類、食用が途絶えたクヌギ・アベマキ・カシワ、という四分類である。しかし北上高地においては、カシワの食習俗が最近まで継承されてきた。

竹内理三ら編（1983）は渡辺原図を基にし、河川・山地を加えた地形図に69遺跡を出土時期別に着色・図化している。その後、ドングリ類の出土遺体にかかるまとまった分布図は出されていない。

## III 縄文遺跡出土のドングリ類とその検討

### 1 情報の入手方法

日本では経済活動が盛んになるにつれて、1975年以降も縄文遺跡発掘の機会が急増した。筆者は、昨春から各都道府県埋蔵文化財調査研究所の助力を得ながら、あわせて発掘調査報告書

にも眼を通した。悉皆調査ではないので遺漏があるが、人工遺物にかかる情報が得られた。ドングリ類の遺体としては、子葉・果皮・種皮・殻斗が含まれる。

## 2 縄文遺跡から出土したドングリ類とその検討

ドングリ類が出土した縄文遺跡数は240にもなり、しかも北海道から沖縄県にまでいたる。その内訳は東日本125 西日本115であるので、かつて言われてきたような東密西疎という傾向は修正されなければならない(第1図 第1表)。それゆえドングリ食文化が北から南へ拡散したと結論づけることはできない。ただし、遺体の種類と出土時期については不明な点が少なくない。

遺体の種類と出土時期は、森林生態系を反映し、東日本と西日本ではかなりの違いが認められる。鹿児島県の草創期後葉から早期にかけて複数の遺跡から、一方、北海道の早期の複数の遺跡から遺体が出土している。出土時期は早期から漸増傾向を見せ、そのピークは東日本の場合は中期、西日本の場合は後期と晩期に該当する。両地域とも後期以降、急減することはない(第2図)。東日本で遺体が中期に急増する現象は、人口増加・稠密化と一致する。

東日本ではミズナラ・コナラをかなり多く出土するのに対して、他の落葉性のドングリは少ない。カシワは北海道に偏っている。なおカシ・シイ類出土の北限は関東付近であり、それより南下すると増加の傾向を示す。57のドングリはその種類が不明であるが、クヌギやアベマキの可能性もある。西日本ではイチイガシの割合が圧倒しており、次いでアラカシ・アカガシとなる。生食可能なシイ類も少なくない。今日、奈良県以西では落葉性ドングリを食用にはしないが、落葉性ドングリの出土が九州地方にまで及ぶことから、カシ・シイ類と平行して食べられていたと判断される。なお、22のドングリはそ

の種類が不明であり、やはり検討の障害となっている(第2表)。

## IV 新石器遺跡出土のドングリ類とその検討

朝鮮半島は、世界でドングリ食が最も盛んな地域である。今日でもトトリムックと呼ばれるドングリコンニャクが、常食されている。韓国山村におけるドングリ食のまとまった最初の現地調査は筆者(1985)によるが、ドングリ遺体にかかる最初の報告は後藤直(1991)による。渡辺(1995)は新石器時代から青銅器時代にかけて南北朝鮮で出土した7例を写真掲載し、その位置を図に示している。小畑弘己ら(2003)の報告は、最新の成果を詳しく伝えている。

朝鮮半島からドングリが出土した遺跡数は14例あり、日本列島と比べると、あまりにも少ない(第3図 第3表)。江原道は古いタイプのドングリ食が残る地域であり、そこから最古の事例すなわち鰲山里(オサンリ) A1号住居址(7,000年前)が発見されたのは興味深い。種の同定がされたのは、鳳溪里(ボンゲリ)遺跡のクヌギ(サンスリ)・カシワ(トッカル)だけである。他の事例も落葉性ドングリの可能性が高い。朝鮮半島でも新石器時代早期以降、アク抜き技術が成立していたと思われる。

## V おわりに

今後、縄文遺跡の発掘増と同定技術の進歩に伴い、研究の精度はさらに高まるはずである。韓国におけるドングリ類の出土例も増えるであろうが、日本に比べてなぜ極端に少ないのか、疑問が残る。一方、『朝鮮考古研究』を見る限り、北朝鮮における発掘が進捗していないのも課題である。ドングリ遺体の研究は、北東アジアにおける先史時代の生業と文化を考えるうえ



第1図 ドングリが出土した遺跡

第1表 ドングリ類の出土例一覧

番号	都道府県	遺 跡	ド ン グ リ の 種 類	縄文時代（時期）
1	北海道	八千代	ミズナラ	早期
2	北海道	S256	ミズナラ	早期
3	北海道	納内6丁目付近	ミズナラ	早期
4	北海道	新道4	ミズナラ	前期後葉, 後期
5	北海道	伊奈仁チシネ 第3 堅穴群	カシワ	中期
6	北海道	忍路土場	ミズナラ	後期中葉
7	北海道	浜松5	ミズナラ、コナラ、カシワ	後期中葉
8	北海道	稲倉石陰	ミズナラ	後期
9	北海道	美々4	ミズナラ	後期末～晩期
10	北海道	美々2	ミズナラ、コナラ、カシワ	晩期
11	北海道	柏原4	ミズナラ	晩期
12	北海道	ママチ	ミズナラ、コナラ	晩期
13	青森	石亀	ドングリ	晩期前葉
14	青森	是川	ナラ	晩期前葉
15	岩手	貝島貝塚	ミズナラ	後期中葉
16	岩手	峠山牧場 I B	ナラノミ?	前期
17	岩手	上八木田 I	コナラ属	前期
18	岩手	細田	ドングリ	晩期
19	宮城	山王	ドングリ	晩期
20	宮城	二月田貝塚	ドングリ	後～晩期
21	秋田	池内	コナラ属、コナラ亜属	前期中葉
22	秋田	鎧田	ドングリ	晩期?
23	秋田	手取清水	コナラ属	縄文～弥生
24	山形	吹浦	ドングリ	前期末葉
25	山形	小山崎	ドングリ	前期前葉
26	山形	下野	ドングリ	中期後葉
27	福島	惣八郎原	ドングリ	中期中葉
28	福島	上原	ドングリ	中期後半
29	福島	連郷	コナラ	中期中葉
30	福島	江平	クヌギ、ミズナラ、コナラ	晩期～弥生中期
31	福島	連郷 B	アラカシ	晩期
32	福島	上林	ドングリ	晩期中葉
33	福島	博毛	ミズナラ	後期初頭
34	福島	柴原 A	コナラ、ドングリ	中期～後期
35	福島	川原	コナラ	後期前葉～中葉
36	茨城	福田貝塚	ドングリ、シイ	後期
37	栃木	鳴井上	ドングリ	前期～後期中葉
38	群馬	元総社寺田Ⅲ	ナラガシワ、コナラ	縄文～弥生
39	埼玉	真福寺	コナラ、ミズナラ、アラカシ	晩期前半
40	埼玉	石神貝塚	カシ、シイ	後～晩期
41	埼玉	妙音寺洞穴	コナラ属	早期～中期
42	埼玉	お伊勢山	アラカシ、シラカシ近似種	中期～後期
43	埼玉	水子貝塚	クヌギ近似種	前期前半
44	千葉	余山貝塚	クヌギ、スダジイ	後～晩期
45	千葉	多古田	クヌギ、シイ	晩期前葉～中葉
46	千葉	保品	ドングリ	晩期前半

47	千葉	海老ヶ作貝塚	ドングリ	中期
48	千葉	加茂	ツブラジイ、マテバシイ	前期
49	千葉	高根木戸貝塚	ドングリ	中期
50	東京	下野谷	イチイガシ	中期後半
51	東京	下宅部	ドングリ	後期
52	神奈川	大丸	ドングリ	早期
53	神奈川	堤貝塚	ドングリ	後期
54	神奈川	宮久保	ナラ属、コナラ属	早期～後期
55	神奈川	小丸	クヌギ	後期
56	新潟	川船河	ドングリ	晩期中葉
57	新潟	沖ノ原	ミズナラ	中期中葉、中期後葉
58	新潟	寺地	ドングリ、シイ	晩期前葉、晩期中葉
59	新潟	刈羽太平	ドングリ	後期初頭～後葉
60	新潟	大沢	ドングリ	中期前葉
61	新潟	豊原	ドングリ	中期前葉
62	新潟	万條寺林	ドングリ	中期中葉、中期後葉
				後期前葉
63	新潟	中道	ドングリ	中期後葉
64	新潟	根立	ドングリ	後期前葉
65	新潟	城之腰	ドングリ	後期前葉
66	新潟	御井戸	ドングリ	晩期後葉
67	富山	古沢	コナラ、アカガシ	後期中葉
68	富山	南太閤山 I	ミズナラ? クヌギまたはアベマキ	前期前葉
69	富山	桜町	ナラノミ	晩期
70	富山	小杉流通業務 団地No.19	コナラ亜属、アカガシ亜属	晩期
71	富山	下老子笹川	コナラ亜属	晩期
72	石川	真脇	コナラ、アカガシ、スダジイ	中期
73	福井	鳥浜	アカガシ、スダジイ、アラカシまたはウラジロガシ	前期前半
74	福井	四方谷富伏	ドングリ (コナラか)	後期後葉
75	山梨	野添	ドングリ	中期
76	山梨	天神	ドングリ	前期
77	山梨	甲ッ原	ドングリ	前期
78	山梨	上北田	ドングリ	前期
79	山梨	坂井	ドングリ	中期
80	山梨	上の平	ドングリ	中期
81	山梨	花鳥山	ドングリ	前期
82	山梨	豆塚	ドングリ	晩期
83	山梨	釈迦堂	ドングリ	早期～中期
84	山梨	宮の上	ドングリ	中期
85	山梨	獅子ノ前	ドングリ	前期
86	山梨	中谷	ドングリ	中期
87	山梨	大月	ドングリ	中期
88	長野	クマンバⅡ	ドングリ	早期末～前期初頭
89	長野	有明山社大門北	カシワ	前期後半
90	長野	葦間川左岸A	コナラ、ドングリ	中期前半
91	長野	三溝上原	ミズナラ	中期
92	長野	五斗林	ドングリ	早期
93	長野	尖石	シンダミ	中期
94	長野	籠畑	ドングリ	前期末

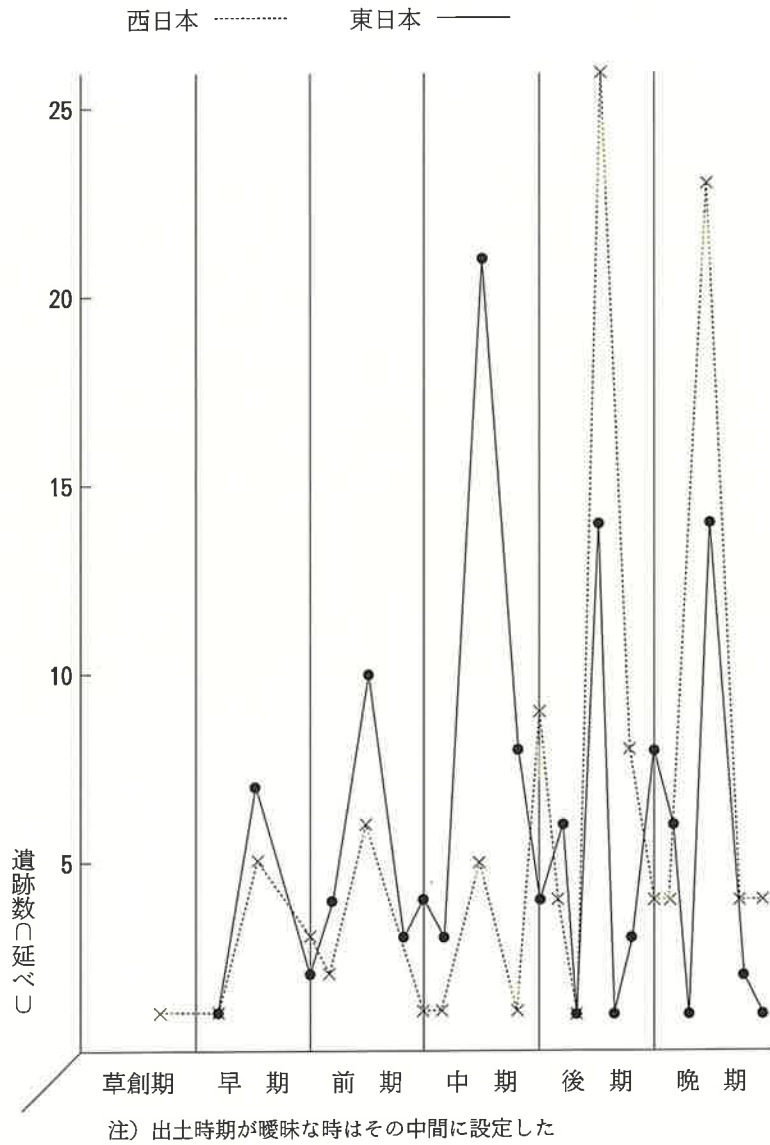
95	長野	栗林	ドングリ	後期中葉
96	長野	月見松	ドングリ	中期
97	長野	宮崎A	ドングリ、カシ?	早期
98	岐阜	島崎	ドングリ (アラカシ)?	中期
99	岐阜	炉畑	ドングリ、シイ	中期
100	岐阜	羽沢	コナラ属	晩期後半
101	岐阜	蘇原東山	カシまたはクヌギまたはナラ	早期末~前期初?
102	岐阜	阿曾田	クヌギ、カシまたはナラ類	中期後半
103	岐阜	ツルネ	ナラ類	中期
104	岐阜	宮ノ前	コナラ属	早期
105	岐阜	垣内	ドングリ	中期~後期
106	岐阜	岩垣内	コナラ属	後期前半
107	岐阜	たのもと	コナラ属	後期前葉
108	岐阜	塚原	ドングリ	縄文~弥生?
109	静岡	メノト	ドングリ	後~晩期
110	静岡	蛭田	イチイガシ	後期後葉~末葉
111	静岡	天王山	イチイガシ	後~晩期
112	静岡	坂田北	アラカシ、コナラ、アベマキ	後期末葉
113	愛知	見晴台	ドングリ	晩期
114	愛知	大地	アラカシ、マテバシイ	後期
115	愛知	馬見塚	シイ	晩期
116	愛知	乙福谷	スダジイ、ドングリ	中期初頭
117	愛知	朝日	ドングリ (クヌギまたはアベマキ)	後期前葉
118	愛知	西北出	アラカシ、マテバシイ	後期中葉
119	愛知	トメキ	クヌギまたはアベマキ、ミズナラまたはコナラ	後~晩期
120	愛知	先苅貝塚	アカガシ亜属、コナラ属	早期前葉
121	愛知	本刈谷貝塚	クヌギ、ミズナラ	晩期前葉
122	愛知	西中神明社南	クヌギまたはアベマキ	晩期末
123	愛知	日陰田	ドングリ	中期後半
124	愛知	木用	ドングリ	後期後半
125	愛知	中村	クヌギ、ナラガシワ、アベマキ、コナラ	後期中葉~後葉
126	三重	森脇	アラカシ、イチイガシ	晩期
127	滋賀	滋賀里貝塚	アラカシ、シイ	晩期
128	滋賀	粟津湖底	イチイガシ、イチイガシ近似種、コナラ、カシ、シイ類	中期前葉
129	滋賀	穴太	イチイガシ、ナラ	後期
130	京都	浜詰貝塚	コナラ属 (カシ?)、アカガシ亜属?	中期~後期
131	京都	桑飼下	イチイガシ、カシ類	後期中葉
132	京都	石田	アラカシ	後期後葉
133	京都	北白川追分町	イチイガシ、アカガシ近似種、アカガシ亜属	晩期末
134	京都	松ヶ崎	アカガシ亜属	前期初頭
135	京都	鶏冠井	コナラ属、アカガシ亜属	後期後葉
136	京都	寺界道	シイ	晩期後半
137	大阪	馬場川	ドングリ	後~晩期
138	大阪	芥川	イチイガシ、アラカシ、クヌギまたはアベマキ	後期中葉
139	大阪	蛭部池西	ドングリ	中期後半~後期前半
140	大阪	更良岡山	ドングリ	中期~後期前葉
141	大阪	長原	ナラガシワ	晩期終末
142	大阪	鬼虎川	コナラ属、アカガシ亜属	晩期末~弥生前期
143	大阪	新家	イチイガシ、スダジイ	晩朝
144	大阪	西浦橋	ドングリ	晩期末



145	大阪	坪井小阪	イチイガシ	中期～晩期
146	兵庫	別宮家野	カシ	早期
147	兵庫	明九橋西	シイ	後期
148	兵庫	中谷貝塚	ドングリ	中期中葉～晩期前半
149	兵庫	中谷貝塚周辺	ドングリ	後期後葉
150	兵庫	貝野前	アラカシ、イチイガシ	後期中葉
151	兵庫	佃	イチイガシ	後期
152	兵庫	楠・荒田町	イチイガシ、アベマキ、アカガシ、コナラ属	後期前半～後半
153	兵庫	本庄町	イチイガシ、アカガシ、シラカシ、スダジイ、コナラ属	後期
154	兵庫	日向垂水	イチイガシ、アカガシ亜属（自然遺物？）	晩期
155	兵庫	大開	イチイガシ	後～晩期
156	奈良	樫原	イチイガシ、ツブラジイ、スダジイ	晩期
157	奈良	東安堵	イチイガシ近似種、ナラガシワ近似種、コナラ属	晩期
158	奈良	平城京左京三条 三・四坊下層	アカガシ亜属	後期前半
159	奈良	平城京左京三条 五坊三坪下層	イチイガシ	後期後葉
160	奈良	平城京左京四条 三坊下層	イチイガシ、アラカシ、アカガシ、コナラ亜属	晩期
161	奈良	三条	クヌギ	晩期前半以前
162	奈良	布留（三島）	コナラ属、アカガシ亜属	晩期初頭
163	奈良	芝	カシ	晩期前半
164	奈良	本郷大田下	カシ・シイ・ナラ類、クヌギ	後期中葉～晩期前
165	奈良	半稻渕ムカンダ	カシ・シイ類	晩期前半
166	和歌山	鷹島	シイ？	中期～後期
167	和歌山	和佐（A地点）	シイ？	中期初頭～晩期前半
168	和歌山	溝ノ口	カシ・シイ類	後期
169	鳥取	大呂川	ドングリ	晩期
170	鳥取	布勢	ドングリ	後期
171	鳥取	桂見	スダジイ	後期
172	鳥取	古市河原田	コナラ属	晩期
173	島根	夫手	ドングリ？	？
174	島根	寺ノ脇	カシ類？	中期
175	島根	佐太講武貝塚	シイ	中期以降
176	島根	菱根	マテバシイ、アラカシ	早期末
177	島根	九日田	ドングリ	後期初頭
178	島根	三田谷 I	イチイガシ、アカガシ	晩期後半
179	島根	前田	アカガシ、シラカシ、コナラ、シイ	晩期頃
180	島根	西川津	カシ	早期末～前期初頭
181	島根	タテチョウ	イチイガシ	縄文
182	岡山	南方前池	ドングリ	晩期
183	岡山	彦崎貝塚	シイ	中期～後期
184	岡山	津島岡大	アラカシ	後期
185	岡山	宮の前	アラカシ、シラカシ、シリブカガシ、シイノキ	晩期
186	山口	岩田	アカガシ、ホンガシ、シイ、ドングリ	晩期
187	山口	潮待貝塚	ドングリ	中期末
188	徳島	矢野	コナラ	後期
189	徳島	石井城ノ内	シラカシ、コナラ属	後期
190	香川	須田・中尾瀬	ドングリ	後期
191	愛媛	江口貝塚 I	イチイガシ、コナラ属	前期前葉

192	愛媛	舟ヶ谷	イチイガシ	晩期
193	愛媛	大見	シイ類	前期前葉?
194	愛媛	平城	カシ類	後期
195	高知	中村貝塚	コナラ	晩期
196	高知	入田	シイ	晩期
197	高知	居徳	イチイガシ、シラカシ	晩期後半
198	高知	船戸	ドングリ	後期後葉
199	高知	松ノ木	コナラ属	後期前半
200	高知	奥谷南	クヌギ、コナラ、アラカシ、シリブカガシ、ツブラジイ	中期末
201	福岡	横隈山第4地点	イチイガシ	早期~晩期
202	福岡	荒田比貝塚	ドングリ、カシ類	後期
203	福岡	長行	ドングリ	晩期
204	福岡	春日台	ドングリ	晩期
205	福岡	野多目枯渡	イチイガシ	後期
206	福岡	長田	イチイガシ	晩期
207	佐賀	西唐津每底	シイ	前期~中期
208	佐賀	坂の下	イチイガシ、アラカシ、ツブラジイ	中期
209	佐賀	久保泉丸山	イチイガシ、ツブラジイ、コナラ属	晩期~弥生前期
210	長崎	名切	イチイガシ	中期~後期
211	長崎	黒丸	イチイガシ	晩期
212	長崎	伊木力	イチイガシ、アラカシ、アカガシ亜属、シリブカガシ	前期
213	長崎	磨屋町	ドングリ	晩期
214	熊本	古閑原貝塚	イチイガシ	中期
215	熊本	黒橋貝塚	アカガシ、シラカシ	中期
216	熊本	曾畑	クヌギ、イチイガシ、アラカシ	前期
217	熊本	椎ノ木崎	イチイガシ	中期~後期
218	熊本	西岡台	イチイガシ、コナラ	前期中葉
219	大分	龍頭	イチイガシ、アカガシ	後期初頭~前葉
220	大分	内河野	イチイガシ、ドングリ	後期後葉
221	大分	生野	ドングリ	後期後葉
222	大分	桑苗	イチイガシ	後期
223	宮崎	松添貝塚	カシ類	後~晩期
224	宮崎	別府原	コナラ属	早期
225	鹿児島	東黒土田	落葉コナラ属	草創期後葉
226	鹿児島	柿ノ木野久尾A	ドングリ (シイ類か?)	早期
227	鹿児島	荒田原	コナラ属	早期
228	鹿児島	花ノ木	イチイガシ	早期前半
229	鹿児島	若宮神社	シイ	後期
230	鹿児島	黒川洞穴	シイ	晩期
231	鹿児島	上加世田	イチイガシ、シイ	晩期
232	鹿児島	永野	シイ類?	早期
233	鹿児島	本城	シイ	前期
234	鹿児島	一湊	シイ	前期
235	鹿児島	草野貝塚	イチイガシ	後期
236	鹿児島	千迫	ドングリ	後期
237	鹿児島	終原貝塚	ドングリ	後期
238	沖縄	前原	オキナワウラジロガシ	後期
239	沖縄	伊礼原B	オキナワウラジロガシ、マテバシイ	前期中葉
240	沖縄	地荒原	シイ類	晩期





第2図 ドングリ類が出土した縄文遺跡の推移

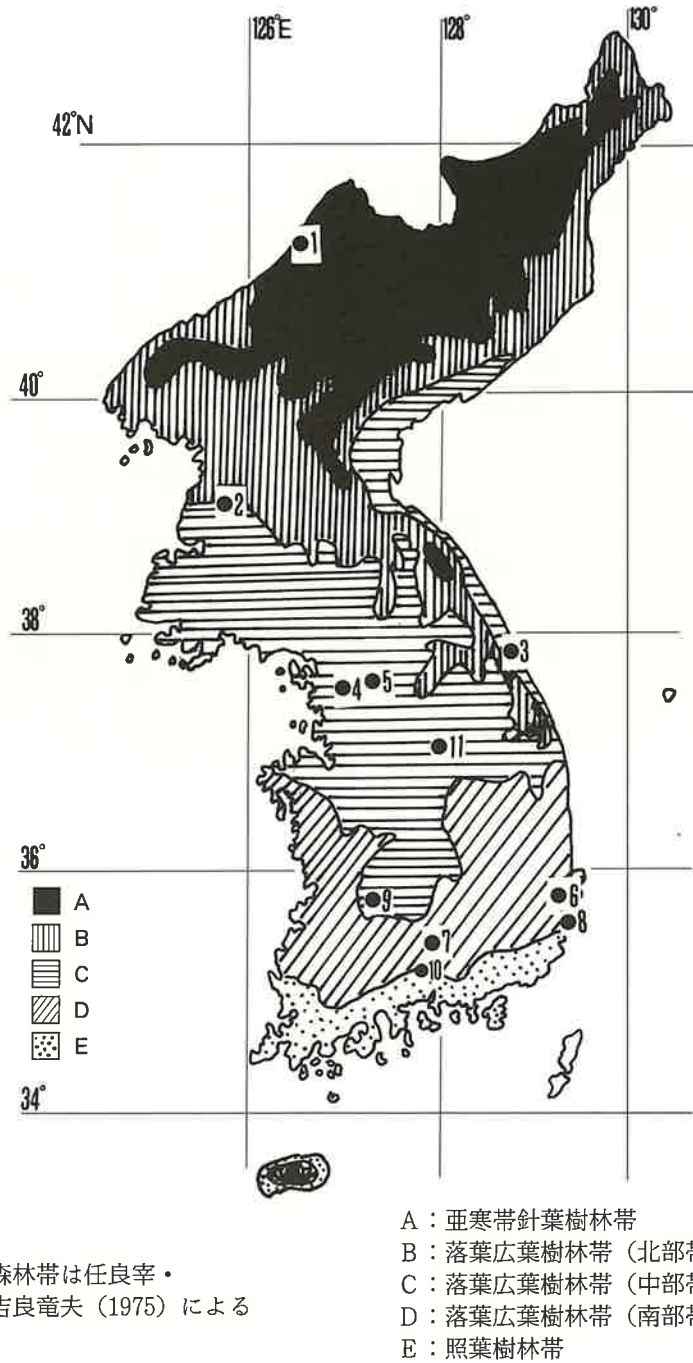
第2表 主なドングリ遺体の整理

地域	分類	種 類	及	件 数		
東日本	落葉	ミズナラ	20	カシワ	4	
		コナラ	13	ナラガシワ	1	
		ナラ類 (?)	5	アベマキ	1	
		クヌギ	5	クヌギかアベマキ	4	
		クヌギ近似種	1			
	照葉	アラカシ	5	ツブラジイ	1	
		イチイガシ	3	シラカシ近似種	1	
		アカガシ	3	カシ類	1	
		マテバシイ	3	カシ類 (?)	3	
		スダジイ	3	シイ類	5	
	他	ドングリ	57			
	西日本	落葉	コナラ	6	ナラガシワ	1
			ナラ類	2	ナラガシワ近似種	1
クヌギ			4	クヌギかアベマキ	1	
アベマキ			1			
照葉		イチイガシ	39	カシ類 (?)	1	
		イチイガシ近似種	2	オキナワウラジロガシ	2	
		アラカシ	15	スダジイ	4	
		アカガシ	8	ツブラジイ	4	
		アカガシ近似種	1	マテバシイ	2	
		シラカシ	5	シイ類	21	
		シリブカガシ	3	シイ類 (?)	4	
		カシ類	10			
他		ドングリ	21	ドングリ (?)	1	

第3表 朝鮮半島から出土したドングリー一覧

番号	遺 跡 名	種 類	形態	場 所	時 期
1	深貴里1号	ドングリ	住居址	慈江道時中郡	青銅器時代
2	南京31号	ドングリ	住居址	平壤市	新石器時代後期
3	鰲山里A1号	ドングリ	住居址	江原道襄陽郡	新石器時代早期
〃	地境里4号	ドングリ	住居址	江原道襄陽郡	新石器時代中期
〃	柯坪里1・2号	ドングリ	住居址	江原道襄陽郡	新石器時代後期
4	岩寺洞1～4号	ドングリ	住居址	ソウル市	新石器時代中期
5	漢沙里	ドングリ	住居址	河南省	新石器時代前期
6	朝陽洞	ドングリ	住居址	慶州市	青銅器時代
7	鳳溪里8・9・10・11・15号	クヌギ・カシワ	住居址	慶尚南道陝川郡	新石器時代後期
8	黄城洞細竹	ドングリ	貯蔵穴	蔚山市	新石器時代前期
9	チングヌル	ドングリ		全羅北道鎮安郡	新石器時代中期、後期
〃	カルモリ	ドングリ		全羅北道鎮安郡	新石器時代中期、後期
10	上村里	ドングリ		晋州市	新石器時代中期、後期
11	早洞里8号	ドングリ	住居址	忠州市	青銅器時代

安承模（2002）、小畑弘己ら（2003）、ソウル大学校博物館（1985）から作成した



第3図 ドングリが出土した遺跡

でその重要性を減ずることはない。

## 参考文献

安承模（2002）「新石器時代の植物性食料（1）  
ー野生食用植物資料」東國大学校埋蔵文化  
財研究所編『韓国新石器時代の環境と生業』  
（ハングル）エデュオイ 85～107頁。

任良宰・吉良竜夫（1975）「韓半島における森  
林植生と気候の分布 I. 温度気候指数の  
分布」（英文）『日本生態学会誌』第25巻 2  
号 77～88頁。（Yang-Jai YIM, and Tatuo  
KIRA, DISTRIBUTION OF FOREST  
VEGETATION AND CLIMATE IN THE  
KOREAN PENINSULA, I. DISTRIBUTION  
OF SOME INDICES OF  
THERMAL CLIMATE, *JAPANESE  
JOURNAL OF ECOLOGY* 25-2, PP. 77  
～88.）.

小畑弘己・坂元紀乃・大坪志子（2003）「考古  
学者のためのドングリ識別法」龍田考古会  
『考古学研究室創設30周年記念論文集 先  
史学・考古学論IV』225～288頁。

後藤直（1991）「日韓出土の植物遺体」小田富  
士雄・韓炳三編『日韓交渉の考古学』六興  
出版 60～64頁。

ソウル大学校博物館（1985）『ソウル大学校考  
古人類学叢刊第十冊 鰲山里遺蹟Ⅱ』（ハ  
ングル）33～38頁。

竹内理三・井上辰雄・江坂輝彌・加藤晋平・佐  
原眞・平川紀一編（1983）『考古遺物遺跡  
地名表＜原始・古代＞』柏書房。

辻稜三（1985）「韓国におけるドングリの加工  
と貯蔵に関する研究」『季刊人類学』第16  
巻 4号 117～156頁。

渡辺誠（1972）「縄文時代のドングリ」『古代文  
化』第24巻5・6号 127～133頁。

渡辺誠（1975）『縄文時代の植物食』雄山閣出  
版。

渡辺誠（1995）『日韓交流の民族考古学』名古  
屋大学出版局。

謝辞：情報収集にあたっては、矢野健一（立命  
館大学）先生及び各都道府県埋蔵文化財  
調査研究所のお世話になりました。ここ  
に厚くお礼を申し上げます。